

公表

児童発達支援 事業所における自己評価結果

事業所名		ケアステーション魚沼					公表日	令和8年 3月27日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	6	・整理整頓。 ・活動の際は狭く感じるためスペース確保して行っている。	・部屋が生活介護と一体になると狭い場合があるが荷物の置き場やスペースを工夫して配慮する。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12		・職員の休みを調整している。	・送迎時看護師が不足する際は療育園からの応援で対応している。 ・医療的ケアが必要な利用者に関して介護職員が喀痰吸引等出来る事を増やす。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	3	・限られた空間の中で工夫されていると思うがもう少しスペースがあるとより良い環境になると思う。 ・バリアフリー化はされており1フロアで分かりやすい作りになっている。	・利用人数が多くなると一人分のスペースがとて狭く、個室（隔離できる部屋）があった方が良いが、限られたスペースで置き場やスペースを工夫し有効活用していく。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	11	1	・活動によってはスペース確保のため棚など動かしスペースを確保している ・毎日清掃の他汚れた際はすぐに清掃やマットの交換に努めている	・今後も清潔に保ち気持ちよく使用できる状態を確保する。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	7	・個室は無いためついでを利用し対応している。 ・仕切り（カーテンやついたて）でのスペース確保を行っている。	・必要時は生活介護の個別活動を事務室で実施するなど工夫しスペース確保している。今後も継続してスペースの確保に努める。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	12		・個別支援計画の評価、見直しを基本的に職員全員参加で行っている。参加できない際は事前に意見をもらったり議事録で共有している。	・日々の活動の際、保育・看護・介護全職員で情報を共有している。今後も継続する。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		・このアンケートを活用している。 ・スタッフ間で共有している。	・事業所評価、家族向けアンケートの結果を共有することで支援の質を向上させていく。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		・チームカンファレンスを2ヶ月に1回実施している他、必要場合は日々のミーティングで取り上げている。	・多職種間の連携を行い今後も意見を出しやすい環境を維持していく。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	2	・第三者評価は取り入れていないが、県による実施指導を受けている。	・実地指導の指摘事項は無いが、指摘がある際は真摯に受け止め改善していく。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12		・県や市町村、法人で開催される研修会に積極的に参加し、参加した職員による伝達を行なうことで他職員にも共有している。	・今後も地域や法人内での研修会に参加していく。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12		・プログラムに沿った支援内容を提供している。	・今後も適正に公表する。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12		・利用者本人に確認できる場合は本人とも話をし、難しい場合は保護者からの要望を確認し計画に反映している。	・今後も利用時の様子を職員間で共有し計画に反映させる。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12		・個別支援計画の評価、見直しを基本的に職員全員参加で行っている。参加できない際は事前に意見をもらったり議事録で共有している。	・担当職員以外も意見を出しやすい環境を継続する。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12		・計画に沿った支援内容を作成し実施している。	・今後も計画に沿った支援を行なう。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	12		・また、職員間での見解の違いなどもカンファレンスやミーティングで話し合いを行っている。	・インフォーマルなアセスメントを行う際に職員の主観が入り込む可能性に注意し客観的なアセスメントを心がけている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12		・本人支援、家族支援は個別支援計画を基に実施している。 ・移行支援は必要時相談支援事業所や発達支援センター「ゆい・にじいろ」と行っている。	・地域支援、地域連携は相談支援センターや自立支援協議会等を通して実施していく。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12		・チームカンファレンスで年間計画、内容を共有している。 ・2ヶ月毎のチームカンファレンスで詳細な計画を共有している。	・毎日の内容はリーダーが利用者に合わせて変更することもある。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11	1	・年間を通し様々な内容を計画している。その中でも新たな取り組みを取り入れている。	・繰り返し同じ内容の提供もあるが同じ内容を繰り返しおこなうメリットもあることを伝えていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	11	1	・集団活動を中心に実施している。 ・腹臥位やマッサージ等状態に合わせた個別の支援も実施している。	・入浴後など日によっては難しい方もいる。可能な限り実施している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12		・保育士を中心に取り組んでいる。	・振り返りを活かして実施していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	無記入1	・その日の振り返りを帰りのミーティングで実施している。	・今後も生活面、活動面の振り返り、改善策等を話し合っていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12		・記録はきちんと残している。 ・かかわった人が記載漏れがない様に報告し記録している。	・パソコンを用いて記録しているため記録できる人数が限られている。入力用のパソコン台数を増やしたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12		・6ヶ月に1回実施。 ・必要時の見直し変更もおこなっている。	・定期利用のない児童に関しては利用時に確認すると共にモニタリング時に情報収集を行っている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12		・児童発達支援管理責任者が中心に会議へ参加している。 ・不明なこと等他職員に確認したうえで参加している。	・会議で得られた情報は今後も職員間で共有していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12		・自立支援協議会への参加や個別の会議等で関係機関と連携している。	・今後も地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等担当者間の連携を図っていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		・相談支援専門員や療育園と連携している。	・今後も必要に応じ連携していく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		・現在就学前の子どもはいない為、今後対象となる利用児がいる場合は情報共有していく。	・今後も必要に応じ連携していく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	10	無記入2	・地域には児童発達支援センターは無く療育園や医ケア児センター「ゆい・にじいろ」に助言をもらっている。	・相談支援事業所や自立支援協議会の子ども部会等で情報共有を行っている。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	5	・以前は行っていたが感染症があり現在は行っていない。	・現在利用している子どもがいないため今後検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12		・送迎時や懇談会、ケアステ行事の座談会など発達の状況や課題についてご家族と共有していた。	・今後契ご家族と情報共有していく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	12		・市内などで開催がある際の情報提供は行っている。 ・懇親会やCS行事での座談会は行い家族同士の悩みや体験談など共有できる場を継続していく。	・事業所開催の勉強会は開催できていないが近隣、療育園での開催の情報は提供していく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11	無記入1	・運営規定、利用者負担は契約時に説明している。	・質問があった際には随時説明していく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11	無記入1	・個別支援計画等の面談の際に家族の意見を確認して同意をいただいている。 ・重症児の意思疎通は難しいため家族の意見や助言をもらいながら本人の表出を確認している。	・相談しやすい環境や雰囲気づくりを心がけていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12		・個別支援計画を提示しながら説明を行い同意を得ている。	・計画の内容が分かりやすい様に工夫していく。

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12		・個別支援計画の面談以外にも送迎時等でも相談に応じ、必要時は助言も行っている。	・相談しやすい環境や雰囲気づくりを心がけていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	12		・懇親会やCS行事の開催時に家族間の交流も行っている。 ・療育園で在宅交流会やきょうだい会を開催している。	・きょうだい同士の交流は事業所では行えていないが療育園のきょうだい会の案内を行っている。 ・守る会加入者が少ないことが課題。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12		・苦情受付窓口を設けており意見箱も玄関の見やすい位置に設置している。	・相談しやすい環境や雰囲気作りを心掛けていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11	1	・定期的に療育園と合同の会報誌『どうしん』を発行している。	・療育園のホームページにも情報が掲載されているので閲覧してもらえるような工夫をしていく
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12		・個人情報取り扱いに関し研修や勉強会を実施し十分に注意している。	・パソコンからの情報漏洩にも気を付けていく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12		・利用者本人との意思の疎通は難しいが気持ちを汲み取ることができるように関わりを設けている。 ・保護者との意思の疎通や情報伝達ができるように努めている。	・意思決定支援に関し定期利用のご家族とはアンケートを通し取り組み始めている。今後も継続して行っていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	4	・ボランティアで地域の方が季節行事や活動に参加している（特定の方1名）。 ・福祉フェス、地域の文化祭等に作品を展示している。また地域の文化祭は見学も企画している。	・スペースや感染の状況から現状ではご招待は困難と考えられる。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12		・担当が作成し事業所内での共有を実施している。	・マニュアルをどのように保護者へ周知していくかが課題。
非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12		・災害、感染のBCP作成済み。 災害の避難訓練は地震、水害、火災に分け実施している。 ・避難所へ避難した際のご家族への引き渡し訓練もR6年度から実施している。	・保護者へのBCP共有実施できていないためその都度連絡している。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12		・服薬に関しては年度初めに確認をしその後変更があった際は連絡と処方箋をもらって把握している。 ・発作や予防接種は利用時に確認している。	・服薬も昼食以外の変更は確認できていないこともあるので、年度初め個別支援計画更新時に確認していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	1	・家族の指示従い対応している。	・昼食は外注弁当の為対応できないので持参していただいている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12		・遊具や設備点検は適宜行っている。 ・送迎車の取り残し防止は都度の確認表で実施している。	・引き続き安全確認を実施する。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12		・避難訓練報告や災害時の連絡先（送迎用携帯電話番号）周知、災害時伝言ダイヤルの周知を実施している。	・今後も家族と連携しながら安全管理を行なう。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12		・事業所内で実施している。	・ヒヤリハット（事故）発生時はその日のうちに振り返りを行い再発防止策を検討。必要時家族にも原因、対策を周知している。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12		・毎月職員間で協議している。 ・研修会が開催される際は出来る限り参加し共有している。	・今後も職員間での協議を継続していく。 ・虐待防止権利擁護の事例が挙げり次第職員間で協議し改善する。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	12		・毎月職員間で協議している。 ・今年度も身体拘束事案は無かった。	・今後も身体拘束を行わずに済むように協議、取り組んでいく。